



芦屋市内水氾濫防災情報マップ

2023年(令和5年)版

発行/芦屋市
0797-31-2121
〒659-8501 芦屋市精道町7番6号
問い合わせ/芦屋市上下水道部下水道課
0797-38-2067 FAX: 0797-38-7307

◆芦屋市では1時間あたりの雨量52.9mmに対応する下水道整備を進めています。このマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、市民の皆様に日頃からの備えや対策をとるために作成したもので、平成25年8月25日豪雨の降雨波形を基に、想定最大規模の降雨として1時間に降る雨が147mmと想定したシミュレーションを行っています。

◆シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨、津波、高潮、洪水(河川の破堤または越水)による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際と異なる場合があります。

◆雨の降り方によっては、このマップに示されていない場所でも浸水する可能性があり、浸水深も深くなる場合がありますので注意してください。

◆内水氾濫防災情報マップに関するQ&Aは市ホームページをご確認ください。



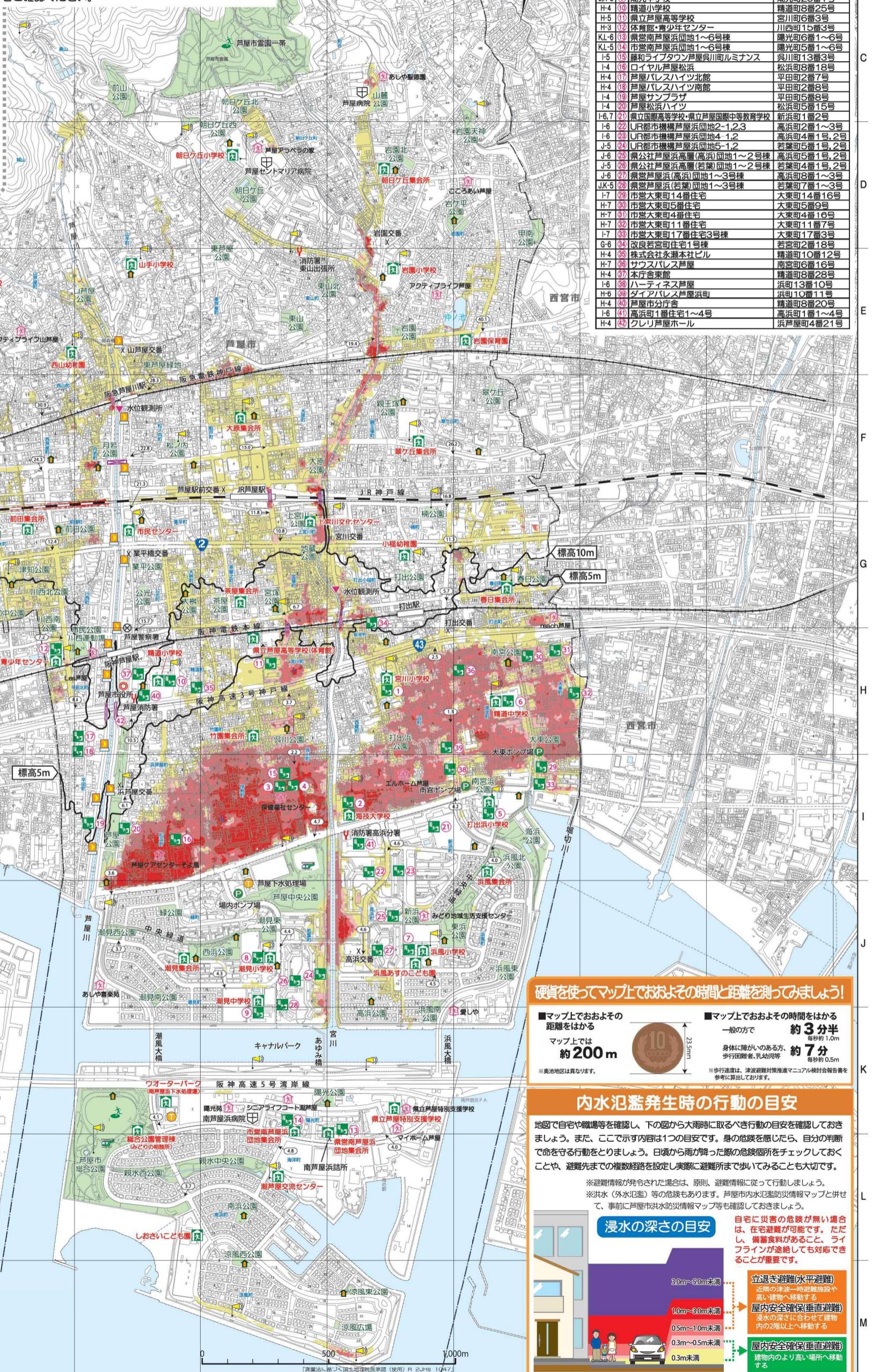
芦屋市ホームページ
内水氾濫防災情報マップ

<https://www.city.ashiya.lg.jp/gesuidou/map.html>

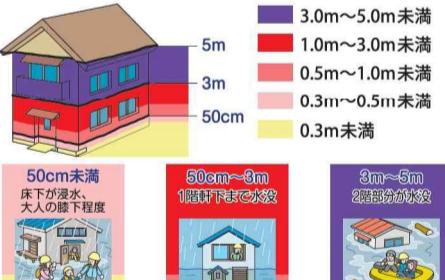
あしや防災ガイドブックと一緒に保管しましょう

防災情報マップをパソコンやスマートフォンで見てみよう
芦屋市 Web 版防災情報マップ [検索](#) スマートフォンからは

奥池地区



浸水深の凡例



地図情報の凡例

- 避難所**
災害が発生した時に、住居が被害を受け居住の場を失った人や避難指示などを発令された場合に、避難の必要がある人を収容する市指定の学校等の建物のことです。
- 広域避難場所**
地震などのによる火災が延焼拡大して地域全体が危険になったときに避難する場所。
- 福祉避難所**
高齢者や障がいのある人など、一般的の避難所生活において配慮を必要とする要配慮者が一時的に生活する避難所です。また、一般的の避難所とは異なり、必要に応じて開設する2次的な避難所です。
- 津波一時避難施設**
遭難への移動が困難な場合に緊急かつ一時的に避難するための避難先として堅固で高い建物を市内各所で指定。避難所のように避難生活をする場所ではありません。
- 屋外拡声子局スピーカー**
防災行政無線のスピーカー、毎日17時に「夕焼けけけ焼け」の試験放送をしています。
- 防災倉庫**
災害発生時や日常の訓練でも使用できるよう、市内42か所に設置されている倉庫では、初期消火用、救助用、救護用の資機材や小学校などの備品を貯蔵しています。
- 標高表示**
その付近のおよその標高
- 地下道(アンダーパス)**
道路や鉄道など立体交叉して下を通る道路。市内には、大雨や洪水時の可能性があるアンダーパスが8か所あります。
- ヘリコプター臨時離着陸場**
被災情報の収集や物資・人の搬送のために臨時に使用するヘリコプターの離着陸場です。
- 水位観測所**
河川の水位を観測しています。観測データは、国土交通省ホームページでの防災情報から確認することができます。
- 河川警報装置(増水警報システム)**
河川の増水を警報する装置です。大雨・洪水注意報または警報の発表と連動して回転灯(黄色)が点灯し、解除になるまで点滅します。回転灯が作動している間は河川敷に立ち入らないようにしましょう。

硬貨を使ってマップ上でおおよその時間と距離を測ってみましょう!

マップ上でおおよその距離をはかる

マップ上では 約 200 m

*奥池地区は異なります。

マップ上でおおよその時間をはかる

一般の方で 約 3 分半
毎秒約 1.0m

身体に障がいのある方、乳幼児等 約 7 分
歩行困難者、乳幼児等 每秒約 0.5m

*歩行速度は、津波避難推進マニュアル検討会報告書を参考に算出しております。

内水氾濫発生時の行動の目安

地図で自宅や職場等を確認し、下の図から大雨時に取るべき行動の目安を確認しておきましょう。また、ここで示す内容は1つの目安です。身の危険を感じたら、自分の判断で命を守る行動をとらしめよう。日頃から雨が降った際の危険箇所をチェックしておくことや、避難先までの複数経路を設定し実際に避難所まで歩いてみることも大切です。

*避難情報が発令された場合は、原則、避難情報を従って行動しましょう。

*洪水(外水氾濫)等の危険もあります。芦屋市内水氾濫防災情報マップと併せて、事前に芦屋市洪水防災情報マップ等も確認しておきましょう。

浸水の深さの目安

3.0m~5.0m未満	立退き避難(水平避難) 近隣の津波一時避難施設や高い建物へ移動する
1.0m~3.0m未満	屋内安全確保(垂直避難) 浸水の深さに合わせて建物内に移動する
0.5m~1.0m未満	屋内安全確保(垂直避難) 建物内のより高い場所へ移動する
0.3m~0.5m未満	屋内安全確保(垂直避難) 建物内に立ち入りないようにしましょう
0.3m未満	自宅にいる場合は、在宅避難が可能ですが、ただし、備蓄食料があること、ライフラインが途絶しても対応できることが重要です。